

宗教改革 500 周年目を記念して

Philippe Charru フィリップ・シャルー 師 講演会

(サントル・セーヴル、パリ・イエズス会哲学・神学大学名誉教授 / パリ・イグナチオ教会オルガニスト)
レスポンス: 吉田新 (東北学院大学文学部准教授、新約聖書学者)

講演題目: ヨハン・セバスチャン・バッハ、霊的な道の師

Johann Sebastian Bach, un maître spirituel

聖書のことばを聞いて理解するのみならず、

ここにそれを受けとめることを大事にしたという、

ルター派の信仰の伝統に育てられたヨハン・セバスチャン・バッハは、

礼拝の音楽の中で、聖書のことばそのものを大事にするとともに、

神のことばが知的レヴェルから、

より内面的なレヴェルに響くものになることを探求した。

カトリック司祭、オルガニスト、祈りの同伴者としてシャルー師は、

バッハの音楽への姿勢と、

バッハ音楽を聴くことによって開かれる霊的な次元を解き明かす。

(文責森)

2017年 10月 28^(土)日

上智大学 10 号館講堂

開場 13:30 開演 14:00

※入場無料。どなたでもご来聴を歓迎いたします。フランス語から日本語への通訳があります。

カトリック音楽哲学者フィリップ・シャルー先生による
ルター派の精神の伝統の中に生きたバッハの音楽に関する特別講演会ですので、
教会の内外を問わずどなたでも関心のある方は、〈宗教対話〉を推進する教会一致のこの記念の年に、
どうぞご来聴くださいますようお願い致します。

主催: 上智大学 重点研究『グローバル化の動向に直面しての
〈宗教的霊性〉の刷新的適応と〈いのちの倫理〉の統合的構築』(代表: 長町 裕司)
(連絡先: 森 裕子 (上智大学神学部) hmorisa@sophia.ac.jp)